

教職科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
国語科教育論Ⅰ	国語科教育論Ⅰ	4	相澤 秀夫	通年	水	1	1
英語科教育論Ⅰ	英語科授業の基礎・基本	4	リース エイドリアン	通年	月	3	2
ドイツ語科教育法Ⅰ	多読によるドイツ語の習得	2	菊池 克己	5	火	4	3
ドイツ語科教育法Ⅱ	ドイツ語文献講読を通してドイツ語教授法を考える	2	松崎 裕人	6	木	3	4
フランス語科教育法Ⅰ	Du savoir-faire au savoir-être	2	メヴェル・ヤン	5	月	2	5
フランス語科教育法Ⅱ	Du savoir-faire au savoir-être	2	メヴェル・ヤン	6	月	2	6
地理歴史科教育法Ⅰ	高等学校の地理授業の設計と実践	2	初澤 敏生	6	木	1	7
地理歴史科教育法Ⅱ	高等学校の歴史授業の設計と実践	2	菊池 茂樹	5	木	1	8
宗教科教育法Ⅲ	岡正雄の日本宗教論(1)	2	山田 仁史	5	金	1	9
宗教科教育法Ⅳ	岡正雄の日本宗教論(2)	2	山田 仁史	6	金	1	10

科目名：国語科教育論Ⅰ／ Teaching Theory of the Japanese LanguageⅠ

曜日・講時：通年 水曜日 1 講時

セメスター：通年， 単位数：4

担当教員：相澤 秀夫（非常勤講師）

講義コード：LB93101， 科目ナンバリング：LHM-EDU901J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

国語科教育論Ⅰ

2. Course Title（授業題目）：

Teaching Theory of the Japanese LanguageⅠ

3. 授業の目的と概要：

学習指導要領の理解並びに教材研究法、国語の授業づくりにかかる基本的な技能を身につける。

4. 学習の到達目標：

教育実習において指導案の作成および教壇実習ができるための実践的な力量を形成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 国語科教育の意義と目的(1)国語科教育の今日的な課題 (2)言葉を学ぶことの意義 (3)教科としての「国語科の目的」
2. 国語科教育論の問題点・課題
3. 現行の国語教室の問題点・課題
4. 学習指導要領と国語の授業作り(1)中学校国語科の構造と内容
5. 学習指導要領と国語の授業作り(2)高等学校国語科の構造と内容
6. 国語科の教材研究論(1)教材論としての教科書教材の取り扱いおよび学習材の開発
7. 国語科の教材研究論(2)文章内容と言葉の扱い
8. 国語の授業づくりと学習指導案の作成（演習）
9. 教材研究と発問づくり(その1)『少年の日の思い出』
10. 教材研究と発問づくり(その2)『走れメロス』
11. 教材研究と発問づくり(その3)『故郷』
12. 学習指導案の作成と検討（演習）
13. 模擬授業（演習）～全員行おう～
14. 国語科の評価
15. 国語科の歴史と今後の課題

6. 成績評価方法：

レポート・演習への参加等

7. 教科書および参考書：

教科書：文部科学省刊行『中学校・高等学校 指導要領解説（国語編）』『若手中学校国語教師のための指導テキスト』（明治図書）

8. 授業時間外学習：

具体的な説明・評論文や小説等の教材研究、学習指導案づくり、授業づくりの準備等を各自事前におこなう。

9. その他：なし

科目名：英語科教育論Ⅰ／ Teaching Theory of English I

曜日・講時：通年 月曜日 3 講時

セメスター：通年， 単位数：4

担当教員：リース エイドリアン（非常勤講師）

講義コード：LB91301， 科目ナンバリング：LHM-EDU903J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

英語科授業の基礎・基本

2. Course Title (授業題目)：

Teaching Theory of English I

3. 授業の目的と概要：

- ・英語科教育の基本理念、目標、学習内容、指導方法、評価等に関する理解を深める。
- ・英語科授業の模擬授業を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・英語科教育の基本理念、目標、学習内容、指導方法、評価等を理解し、説明できる。
- ・模擬授業を通して、基本的な指導技術を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

外国語教育について学び、模擬授業や様々な問題に関するディスカッションを行う。外国語教育について学び、模擬授業や様々な問題に関するディスカッションを行う。

6. 成績評価方法：

- ①小テスト（40%）、②ディスカッション参加（20%）、③模擬授業（40%）

7. 教科書および参考書：

Brown, H. D., & Lee, H. (2015). Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy (4th ed.). White Plains, NY: Longman.

8. 授業時間外学習：

テキストを読んで、ディスカッションの準備や理解できるところとそうでないところを明確にした上で、授業に臨むこと。

9. その他：なし

英語科教育論Ⅰ は英語と日本語の両方で行われる。

科目名：ドイツ語科教育法 I / Teaching Method of German Studies I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：菊池 克己（非常勤講師）

講義コード：LB52410, 科目ナンバリング：LHM-EDU905J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

多読によるドイツ語の習得

2. Course Title (授業題目)：

German acquisition based on extensive reading (Tadoku)

3. 授業の目的と概要：

この授業では外国語習得のアプローチとして多読を取り上げ、多読を知識として紹介するだけでなく、実際に体験してもらう。それによって、懸命に勉強しても外国語が身についたという実感が持てない従来の学習法を相対化し、その問題点を考えると同時に、新しい外国語習得の可能性を探る。

4. 学習の到達目標：

- ・多読というアプローチを知る。
- ・訳読ではない、ドイツ語で「読書」する楽しさを知る。
- ・ドイツ語での読書を習慣化する。
- ・従来の学習法を見直し、その問題点を考察する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は多読の実践が中心。多読は自分が楽しんで読める本を大量に訳さずに読む。絵本などのやさしい本から始めて、自分にあった本を自分で選んで読み、その経験を簡単に記録する。

- 1 オリエンテーション：多読とは何か？
- 2 多読実践 1：多読の読み方を知る
- 3 多読実践 2：自分にあった本の選び方
- 4 多読実践 3：読書を楽しむために
- 5 多読実践 4：多読に親しむ
- 6 多読実践 5：多読に親しむ
- 7 多読実践 6：多読に親しむ
- 8 ここまでの感想、自分の多読を発展・深化させるために目標を立てる
- 9 多読実践 7
- 10 多読実践 8
- 11 多読実践 9
- 12 多読実践 10
- 13 多読実践 11
- 14 多読実践 12
- 15 多読経験を振り返って

6. 成績評価方法：

平常点 [100%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示

8. 授業時間外学習：

隙間時間を利用するなど、自分で本を選んで多読に取り組む。訳読ではなくドイツ語での「読書」を習慣化する努力を。

9. その他：なし

科目名：ドイツ語科教育法Ⅱ／ Teaching Method of German Studies II

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：松崎 裕人（非常勤講師）

講義コード：LB64301, 科目ナンバリング：LHM-EDU906J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ語文献講読を通してドイツ語教授法を考える

2. Course Title (授業題目)：

Deutschdidaktik

3. 授業の目的と概要：

文学理論入門書を読みながら、ドイツ語文読解力の養成をはかる。
併せて、補助教材や資料の使用法に習熟する。
その作業を通して、「科目」としてのドイツ語について理解を深める。

4. 学習の到達目標：

中級ドイツ語の文献を読解することができる。
特殊辞典・事典を効果的に使うことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 講読 (1) およびビューハークンデについて (1)
- 3 講読 (2) およびビューハークンデについて (2)
- 4 講読 (3)
- 5 講読 (4) および独独辞典の活用 (1)
- 6 講読 (5) および独独辞典の活用 (2)
- 7 講読 (6)
- 8 講読 (7) とまとめ (1)
- 9 講読 (8) および事典の活用 (1)
- 10 講読 (9) および事典の活用 (2)
- 11 講読 (10)
- 12 講読 (11) およびランデスクンデについて (1)
- 13 講読 (12) およびランデスクンデについて (2)
- 14 講読 (13)
- 15 講読 (14) とまとめ (2)

6. 成績評価方法：

授業での発表と課題提出 (100%)

7. 教科書および参考書：

テキスト：

J. Culler 『Literaturtheorie. Eine kurze Einführung』(Reclam UB, 2013 [2. Auflage])

4. Kap.: Sprache, Bedeutung und Interpretation (プリント配布)

それ以外のテキストや参考文献については開講時に紹介します。

8. 授業時間外学習：

毎回、テキスト1頁半ほどの準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。

9. その他：なし

オフィスアワー等については開講時に案内します。

科目名：フランス語科教育法 I / Teaching Method of French Studies I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：メヴェル・ヤン (准教授)

講義コード：LB51210, **科目ナンバリング：**LHM-EDU909J, **使用言語：**英語以外の外国語

1. 授業題目：

Du savoir-faire au savoir-être

2. Course Title (授業題目)：

Du savoir-faire au savoir-être

3. 授業の目的と概要：

Le cours permettra d'apprendre à apprendre. En s'appuyant sur la recherche en didactique ainsi que sur des exemples variés, empruntés notamment à des manuels de FLE en usage au Japon, il s'agira de cerner les objectifs langagiers, pragmatiques et socio-culturels d'un cours de FLE, de préciser les modalités de l'apprentissage d'une langue étrangère, d'apprendre à construire une séquence didactique et à évaluer les productions, les acquis.

4. 学習の到達目標：

Le cours aura une visée pratique mais donnera lieu à une réflexion méthodologique. Dans la perspective de cours de communication, en particulier, il permettra la construction d'activités suscitant l'interaction, l'auto-évaluation et une progressive autonomie de l'apprenant. Les spécificités des besoins et attentes de l'apprenant japonais seront soulignées.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Sensibilisation à l'interculturel

2) Langage verbal et langage paraverbal

3) Quelles compétences construire ? Quels objectifs se donner ?

4) Les mécanismes de l'apprentissage

5) Les ressorts de la motivation

6) Le choix des supports pour un cours de communication

7) L'apprentissage actionnel

8) La notion de séquence didactique. Choix, progression et articulation des activités

9) La compréhension de l'oral

10) L'expression orale (I)

11) L'expression orale (II)

12) La compréhension de l'écrit

13) L'expression écrite (I)

14) L'expression écrite (II)

15) Travaux d'étudiants

6. 成績評価方法：

Au premier semestre, l'évaluation prendra en compte pour 50 % la participation active aux cours. 50 % seront également accordés à un dossier réalisé en fin de semestre visant à observer et analyser les forces et faiblesses d'une séquence didactique.

7. 教科書および参考書：

Janine Courtillon, Élaborer un cours de FLE, Paris, Hachette Français Langue étrangère, 2003.

8. 授業時間外学習：

Régulièrement, les étudiants devront se pencher sur des extraits de manuels pour rendre compte de leur point de vue sur les stratégies didactiques mises en œuvre. Progressivement, ils auront à soumettre eux-mêmes des activités destinées à un cours de FLE, activités qui seront discutées collectivement.

科目名：フランス語科教育法Ⅱ／ Teaching Method of French Studies II

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：メヴェル・ヤン（准教授）

講義コード：LB61209, **科目ナンバリング：**LHM-EDU910J, **使用言語：**英語以外の外国語

1. 授業題目：

Du savoir-faire au savoir-être

2. Course Title (授業題目)：

Du savoir-faire au savoir-être

3. 授業の目的と概要：

Le cours permettra d'apprendre à apprendre. En s'appuyant sur la recherche en didactique ainsi que sur des exemples variés, empruntés notamment à des manuels de FLE en usage au Japon, il s'agira de cerner les objectifs langagiers, pragmatiques et socio-culturels d'un cours de FLE, de préciser les modalités de l'apprentissage d'une langue étrangère, d'apprendre à construire une séquence didactique et à évaluer les productions, les acquis.

4. 学習の到達目標：

Le cours aura une visée pratique mais donnera lieu à une réflexion méthodologique. Dans la perspective de cours de communication, en particulier, il permettra la construction d'activités suscitant l'interaction, l'auto-évaluation et une progressive autonomie de l'apprenant. Les spécificités des besoins et attentes de l'apprenant japonais seront soulignées.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Le contrat didactique
- 2) Les stratégies didactiques
- 3) La gestion de l'hétérogénéité
- 4) Concevoir des activités ludiques
- 5) Concevoir des activités créatives
- 6) L'utilisation de documents authentiques
- 7) L'usage de la presse
- 8) L'usage de la vidéo
- 9) L'apport des nouvelles technologies
- 10) Élaborer un apprentissage collaboratif : travail de groupe et jeux de rôles
- 11) Développer l'autonomie
- 12) L'auto-évaluation
- 13) Cerner les acquis. Construction de tests et de grilles d'évaluation
- 14) Observation et analyse d'une séquence didactique dans un manuel en usage au Japon
- 15) Travaux d'étudiants

6. 成績評価方法：

Au second semestre, l'évaluation des étudiants prendra en compte pour 50 % la participation active aux cours. 50 % seront également accordés à la présentation orale d'une séquence didactique.

7. 教科書および参考書：

Janine Courtillon, Élaborer un cours de FLE, Paris, Hachette Français Langue étrangère, 2003.

8. 授業時間外学習：

Régulièrement, les étudiants devront se pencher sur des extraits de manuels pour rendre compte de leur point de vue sur les stratégies didactiques mises en œuvre. Progressivement, ils auront à soumettre eux-mêmes des activités destinées à un cours de FLE, activités qui seront discutées collectivement.

9. その他：なし

科目名：地理歴史科教育法 I / Teaching Method of Geography and History Studies I

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：初澤 敏生 (非常勤講師)

講義コード：LB64101, **科目ナンバリング：**LHM-EDU913J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

高等学校の地理授業の設計と実践

2. Course Title (授業題目)：

Teaching Method of Geography Study

3. 授業の目的と概要：

「高等学校学習指導要領地理歴史編解説」についての解説を行い、その特徴と課題を把握する。合わせて教科書分析を行い、その授業化のための留意点などを検討する。次いで、受講生が授業案を作成し、それに関する討議・講評を行う。その後、受講生をいくつかのグループに分けて模擬授業を作成・実践し、それについての討議を行う。模擬授業は各グループごとに 50 分 1 コマ分を行い、各授業実践に関して受講者全員で討議する。

4. 学習の到達目標：

平成 21 年度改訂学習指導要領の特徴と課題を理解した上で、高等学校地理の授業づくりに関する基礎的な考え方と方法、技能を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業に関するガイダンスと授業案作成にあたっての留意点
 2. 平成 21 年度改訂学習指導要領に関する解説 (A 科目を中心に)
 3. 教科書分析 (A 科目を中心に)
 4. 平成 21 年度改訂学習指導要領に関する解説 (B 科目の系統学習を中心に)
 5. 教科書分析 (B 科目の系統学習を中心に)
 6. 平成 21 年度改訂学習指導要領に関する解説 (B 科目の地域学習を中心に)
 7. 教科書分析 (B 科目の地域学習を中心に)
 8. 今後の学習指導要領について／防災教育について
 9. 授業案の講評 (A 科目を中心に)
 10. 授業案の講評 (B 科目を中心に)
 11. 模擬授業 (グループ A) の実践と討議、講評①
 12. 模擬授業 (グループ B) の実践と討議、講評②
 13. 模擬授業 (グループ C) の実践と討議、講評③
 14. 模擬授業 (グループ D) の実践と討議、講評④
 15. 振り返りと学習内容の定着
- 6. 成績評価方法：**
模擬授業の評価と授業づくりへの貢献度 (50%)、作成した授業案の評価 (40%)、授業中の積極性 (10%)
- 7. 教科書および参考書：**
文部科学省『学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成 22 年 6 月) 必携のこと。
- 8. 授業時間外学習：**
授業時間外に授業案づくりに関する課題を課す。また、グループ作成となる模擬授業づくりの準備等は授業時間外に行うことになるので、準備しておくこと。
- 9. その他：**なし

科目名：地理歴史科教育法Ⅱ／ Teaching Method of Geography and History Studies II

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：菊池 茂樹（非常勤講師）

講義コード：LB54101, **科目ナンバリング：**LHM-EDU914J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

高等学校の歴史授業の設計と実践

2. Course Title (授業題目)：

Teaching Method of History Study

3. 授業の目的と概要：

社会科教育の歴史及び教育課程の変遷を踏まえ、地理歴史科誕生の意義を明らかにするとともに、各科目の基本的な内容や特質を理解する。さらに、教材研究の仕方や学習指導案の作成など授業実践のための基礎を学ぶ。そのうえで、学習指導案を作成・検討し、グループ単位で模擬授業を行うことによって、授業構成や発問・板書など教育実習に向けた実践的な指導法や心構えを身につける。

4. 学習の到達目標：

- ①学習指導要領の変遷を踏まえた地理歴史科の目的、内容を理解する。
- ②歴史系科目の構造、内容、特質を把握する。
- ③各自の専門科目の学習指導案を作成する。
- ④模擬授業をととして授業構成力や実践力を高めるとともに、教育実習に向けての心構えを身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業に関するガイダンスと社会科の存在意義
2. 教育課程の変遷と社会科の再編成
3. 世界史A・Bの目標と内容
4. 日本史A・Bの目標と内容
5. 学習指導要領の「指導上の配慮事項」、追加項目
6. 授業と学習指導案の関係（VTR視聴）
7. 教材研究の意義と方法
8. 学習指導案の書き方
9. 学習指導案の講評（世界史A・B）
10. 学習指導案の講評（日本史A・B）
11. 模擬授業と授業評価①（演習）
12. 模擬授業と授業評価②（演習）
13. 模擬授業と授業評価③（演習）
14. 模擬授業と授業評価④（演習）
15. 新学習指導要領の要点

6. 成績評価方法：

模擬授業の評価（40%）、学習指導案の評価（30%）、小テスト（20%）、授業への参加・態度（10%）。

7. 教科書および参考書：

文部科学省『学習指導要領解説 地理歴史編』（平成22年6月）必携のこと。

8. 授業時間外学習：

授業時間外に学習指導案の作成、模擬授業づくりの準備を行う。

9. その他：なし

科目名：宗教科教育法Ⅲ／ Teaching Method of Religions Studies III

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：山田 仁史（准教授）

講義コード：LB55102, 科目ナンバリング：LHM-EDU917J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

岡正雄の日本宗教論（1）

2. Course Title（授業題目）：

Masao Oka's thesis on Japanese religion

3. 授業の目的と概要：

民族学者・岡正雄（1898-1982）は戦前ウィーンにおいて『古日本の文化層』を著し、日本の宗教について新たな知見を提出した。これは皇国史観とは相容れない内容をふくみ、戦後日本の宗教教育にも直接間接に影響を及ぼしたと見なすことができる。本授業では、岡のドイツ語原文を読解することから内容を考察し、戦後日本の宗教教育について再考したい。

4. 学習の到達目標：

岡正雄のドイツ語を精確に読解し、戦後日本の宗教観・宗教教育について考察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、担当者による邦訳の発表とディスカッションを行う。

6. 成績評価方法：

担当部分の発表（50%）と討論への参加状況（50%）により評価する。

7. 教科書および参考書：

テキストは、Oka, Masao, Kulturschichten in Alt-Japan, 2 Bde. Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt, 2012. (Kap. 5.3 Religion)。入手方法は初回に指示します。

8. 授業時間外学習：

岡の独文読解と和訳に精力的に取り組んでください。

9. その他：なし

科目名：宗教科教育法Ⅳ／ Teaching Method of Religions Studies IV

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：山田 仁史（准教授）

講義コード：LB65104, 科目ナンバリング：LHM-EDU918J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

岡正雄の日本宗教論（2）

2. Course Title（授業題目）：

Masao Oka's thesis on Japanese religion

3. 授業の目的と概要：

民族学者・岡正雄（1898-1982）は戦前ウィーンにおいて『古日本の文化層』を著し、日本の宗教について新たな知見を提出した。これは皇国史観とは相容れない内容をふくみ、戦後日本の宗教教育にも直接間接に影響を及ぼしたと見なすことができる。本授業では、岡のドイツ語原文を読解することから内容を考察し、戦後日本の宗教教育について再考したい。

4. 学習の到達目標：

岡正雄のドイツ語を精確に読解し、戦後日本の宗教観・宗教教育について考察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、担当者による邦訳の発表とディスカッションを行う。

6. 成績評価方法：

担当部分の発表（50%）と討論への参加状況（50%）により評価する。

7. 教科書および参考書：

テキストは、Oka, Masao, Kulturschichten in Alt-Japan, 2 Bde. Bonn: Bier'sche Verlagsanstalt, 2012. (Kap. 5.3 Religion)

8. 授業時間外学習：

岡の独文読解と和訳に精力的に取り組んでください。

9. その他：なし